

名古屋徳洲会総合病院 循環器内科 後期研修プログラム

プログラムの特徴／沿革など

本地区に特筆できる症例数を経験できますし、循環器内科として幅広い知識、手技を行えるように指導致します。また、なるべく自分で手技が行えるように早期から手技の指導も行っております。心電図診断、胸部レントゲン、心エコー(経食道心エコーも含む)手技、診断、運動負荷テスト、心臓CT検査の読影等、3年で検査適応を理解し、治療に行かせる思考回路を完成させるように指導します。冠動脈疾患は、診断、治療適応、治療方針、治療後のフォローを、指導医の監視下ではありますが、自ら行い対応して頂きます。心臓カテーテルもなるべく自ら手技を行い、早い段階で実力をつけるように指導しております。心不全疾患も同様に、診断、治療も含め、世の中にある治療薬を3年間で使いこなせるように症例を経験して頂きます。両心室ペースメーカーの適応、その手技も行えるように指導します。重症心不全の最終手段である心臓移植にもエントリー対応が行えるようになって頂きます。また、心臓リハビリテーションの適応判断、処方箋指示が作成できるようになって頂きます。不整脈疾患は、まずは、ペースメーカー植え込み手技を完遂できるようになることが3年間の目標です。カテーテルアブレーションもその適応の判断をできるようになって頂き、心房細動や、房室結節性リエントリー性頻拍の手技は自ら行えるように指導します。末梢血管は、閉塞性動脈硬化症、腎硬化症、頸動脈硬化症の治療の適応を自分で判断できるように、また、その手技も可能な限り行えるように指導します。大動脈ステントグラフトは、その治療適応の判断ができるようになって頂き、心臓血管外科・放射線科と一緒に治療手技に参加できるようにする。PTAV(大動脈狭窄症に対するバルーン治療)は、その治療適応を判断できるようになり、治療に参加する。

到達目標やアウトカム

- ①内科認定医を取得する
- ②将来、循環器専門医取得できるような研修を行う
- ③将来、心血管インターベンション学会認定医を取得できるような研修を行う
- ④将来、両心室ペースキング、植え込み型除細動器 植え込み資格を取得できるよう犬種を行う
- ⑤将来、不整脈専門医を取得できるような研修を行う
- ⑥将来、大動脈ステントグラフト施行医の資格を取得できるような研修を行う
- ⑦将来、心臓リハビリテーション指導士の資格を取れるように研修を行う

休暇／学会出張などの条件

メリハリを付けた研修をするため、各期に長期休暇が取れるようにしております。

春休み：4日、夏休み：7日、冬休み：5日

演題が通過した学会には、病院より出張手当が付きまします。当科のスタントして、国内はもちろん、国際学会に積極的に演題提出しており、後期研修中に少なくとも1回は国際学会での発表をして頂きます。

週間スケジュール

外来：週2回

循環器オンコール：月7日程度

当直：月4回程度

カテーテル日は、毎日であり自身が担当する患者、指導医の担当する患者さんのカテーテル手技に参加して頂きます。

カンファレンス：週2回

論文抄読会：週1回

心エコーカンファ：月2回

心臓CTカンファ：月2回

募集人員

2名/年

研修期間

3年

学会施設認定・取得可能な資格など

- ・日本内科学会認定医制度教育関連病院
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医制度認定超音波専門医研修施設

診療実績・データ

経皮冠動脈ステント留置術：451例

(IVUS：99%、慢性閉塞性疾患：28症例)

ペースメーカー植え込み術：35例

(植え込み型除細動器、両心室ペースメーカー等を含む)

心臓電機生理学的検査：34例

(カテーテルアブレーションを含む)

64列心臓マルチスライスCT：1,647件

PCPS：14件

IABP：43件

CHDF：63件

現在の指導体制

指導責任者：亀谷良介



虚血性心疾患、重症心不全、不整脈

副指導責任者：下郷卓史



虚血性心疾患、重症心不全、末梢血管、心臓リハビリテーション

指導医：田中昭光



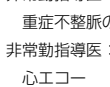
虚血性心疾患、末梢血管、大動脈ステントグラフト

非常勤指導医：角辻暁



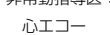
虚血性心疾患：慢性閉塞性冠動脈疾患のカテーテル治療手技

非常勤指導医：江里正弘



重症不整脈の治療手技

非常勤指導医：田中健雄



心エコー

研修修了者実績

5名

指導医からのメッセージ

当科では、多くの症例が経験できます。多くの大病院が、循環器内科の中でも虚血性、不整脈と細分化しておりますが、当科は虚血性心疾患にのみ特化することなく循環器疾患を幅広く診断や、その治療を自身のものとなるように研修して頂きます。また、早期に手技に参加できるように指導しており、特にカテーテル手技は早期に完遂できるように研修して頂きます。

学会活動も国内、国外にかかわらず積極的に参加しており、それに加わって頂きます。後期研修3年で論文1本作成できるよう指導致します。

忙しいことは間違い有りますが、メリハリをつけた研修ができるよう各期に休暇がとれるように工夫しております。働くときは働く、休むときは休むというスタンスで皆頑張っておりますので、是非、幅広い知識、手技を取得するために当科と一緒に働きませんか。

後期研修医からのメッセージ

林隆三(2008年~2011年 名古屋徳洲会総合病院 循環器内科後期研修医)

多くの循環器疾患にたずさわることができ、手技を早く実践させて貰える点に興味を持ち当科での後期研修を行いました。冠動脈造影検査は後期研修1年目で300例以上経験し、後期研修2年目では、経皮的冠動脈形成術のオペレーターとしても指導して頂きました。ペースメーカー手技も後期研修2年目で完遂できて、後期研修3年目には心房細動のカテーテルアブレーションも治療を自身で完遂できて、手技上も非常に満足しています。手技だけではなく、カンファレンス・抄読会で知識を積み重ね、後期研修1年目には全国学会での発表、後期研修2年目では国際学会での発表も経験しています。

現在も当科で修練を積み、手技も知識もさらなる高見を目指して頑張っております。そんな教育下で育った私としては、後輩にも同様の研修をさせてあげたいと思っています。是非、一緒に働きましょう。

指導責任者



亀谷 良介(かめたに・りょうすけ)

1997年山口大学医学部卒業。山口大学医学部附属病院内科学第2講座、国立病院機構横浜田医療センター循環器科、山口大学大学院、沖縄北部地区医師会病院循環器科を経て、名古屋徳洲会総合病院ハートセンター循環器内科勤務。

認定資格：医学博士、日本内科学会認定医・指導医、日本循環器学会認定専門医、日本心血管インターベンション学会専門医・指導医、植え込み型除細動器・ペースキングによる心不全治療研修取得。

問い合わせ窓口：〒487-0016 愛知県春日井市高蔵寺町北2丁目52番 TEL：0568-51-8711 FAX：0568-51-7115

担当者：亀谷良介 Mail：k-ryousuke@nagoya.tokushukai.or.jp 事務担当者：総務課 加藤 Mail：kenshu@nagoya.tokushukai.or.jp